

保育の専門コースを擁する高等学校に於ける 保育技術検定導入とその課題

三 沢 大 樹

An Introduction of Child-Care Skills Test to High School
Child-Care Courses and its Challenges

Daiju MISAWA

2018 年 11 月 9 日受理

抄 録

新学習指導要領に於ける専門教科「家庭」の保育に関する科目の整理統合の構造的特徴と、技術の習得に対する指導の工夫としての活用が示された「全国高等学校家庭科保育技術検定」の検定内容と方法の現状に関して分析を行った。結果、新設科目「保育基礎」と「保育実践」は、従前の二つの科目の内容を踏襲しながらも、学習の系統性が意識され、「保育基礎」を履修後に「保育実践」へと繋がる構造化された再編であることが確認された。一方で、単位数の設定幅が広がり、教育の質保証という新たな課題が考えられる。保育技術検定は、今後全国各地の高等学校で導入が見込まれる一方で、昭和 63 年厚生省令第 36 号により、在学中の保母試験（資格試験）受験資格特例措置の廃止に伴い導入された経緯から、検定種目の名称が旧来のものであったり、一部の検定内容に偏りが見られたりと、専門高校の授業で取り扱うことや高大接続の観点に於いて今後早急に改善すべき課題が確認された。

キーワード：高等学校保育コース，新高等学校学習指導要領，保育基礎，保育実践，
全国高等学校家庭科保育技術検定

1. 緒言

新しい高等学校学習指導要領（以下、新学習指導要領）が平成 30 年 3 月 30 日に告示された。今後、平成 34 年度の第一学年から学年進行で実施される。今回の改訂の基本的な考え方として、現行学習指導要領の枠組みや教育内容を維持した上で、知識の理解の質をさらに高め、確かな学力を育成すること、さらには「社会に開かれた教育課程」「高大接続改革」というキーワードが上げられる。また、教育内容の主な改善事項として、〈言語能力の確実な育成〉〈理数教育の充実〉〈伝統や文化に関する教育の充実〉〈道徳教育の充実〉〈外国語教育の充実〉、そして〈職業教育の充実〉の 6

項目が示され、総則や各教科・科目等において、その特質に応じて内容やその取扱いの充実が図られたところである。

ところで、我が国の高等学校の一部には、保育の専門学科等（以下、保育コース）を擁し、将来保育職を目指す生徒たちに対して、保育に関する専門的指導が行われていることを筆者はこれまでに論じてきた¹。保育コースは、家政科等の「家庭」の専門学科や、一部の総合学科等に設置されることが多い。今回、「主として専門学科において開設される各教科『家庭』（以下、専門教科「家庭」）」の改訂要点として、「子どもの発達や地域の子育て支援に関する学習の充実」の他、全5項目が学習内容の改善として示された。また、科目構成の改善が図られ、従来の20科目から21科目に改められた。保育に関する科目は、従前の通り2科目であるが、現行学習指導要領の「子どもの発達と保育」及び「子ども文化」に関して、新学習指導要領では、職業人としての意識をより一層高めることができるよう、従前の内容を整理統合した結果、「保育基礎」及び「保育実践」として再編された。また、新しい高等学校学習指導要領解説（以下、新学習指導要領解説）には、技術の習得に対する工夫として「全国高等学校家庭科保育技術検定（以下、保育技術検定）」の活用が示されたところである。

以上のことから、新学習指導要領において保育に関する科目がどのように整理統合されたのか構造的な知見から概観すること、さらには新学習指導要領解説の中で示された保育技術検定の内容や方法を俯瞰し、高校生の段階で必要な「保育の学習」という観点の下、本検定が教育現場でより活用されるためにはどのようにあるべきか、今後の課題等を検討するための基礎的知見を得ることを着想した。

本稿では、新学習指導要領に於ける保育に関する科目の整理統合の構造的特徴の確認並びに保育技術検定の検定内容と方法に関して分析を行い、新学習指導要領の下、今後保育コースで保育技術検定が広く導入されてゆく上で、考えられる課題及び保育技術検定と新設科目の関連等に関して考察を述べる。

2. 結果と考察

2. 1 整理統合の概要

現行の高等学校学習指導要領解説を確認すると、「子供の発達と保育」には「保育所保育指針の改訂などに対応して発達過程の考えを重視するとともに、次世代育成を推進する観点から子育て支援の必要性に対応して内容の改善を図り、発達の主体と保育の対象をより明確にするために、従前の『発達と保育』から『子どもの発達と保育』と改めた。」と、以前の学習指導要領からの改訂の主旨が説明されている。5項目構成で、4～6単位程度の履修を想定した科目である。「子ども文化」に関しては、「従前の『児童文化』の内容について、伝統的な児童文化とともに、現代の生活に基づく子どもの遊びや表現活動を広く取り上げる等の充実を図り、科目の名称を『子ども文化』と改めた。」と解説されており、この科目も5項目構成で、4～6単位程度の履

¹ 保育コース生を対象とした筆者らによる指導実践の詳細は、三沢・高橋・安川（2017）を参照のこと。

修を想定している。

一方で、新学習指導要領解説を確認すると、「保育基礎」に関しては「新しい保育所保育指針などに対応するとともに、職業人としての意識を高めることができるよう、従前の『子どもの発達と保育』と『子ども文化』の内容を再構成し、子供の発達課程や生活の特徴を保育に関連付けて体系的に学ぶことにより、子供の姿全体を捉えられるよう内容の改善を図った。また、子供の遊びや表現活動に関する内容を充実し、子供と触れ合う具体的な方法を学ぶことで、より実践的な活動ができるよう改善を図った。」と解説されている。この科目は五つの指導項目で、2～6単位程度の履修を想定した構成となっている。「保育実践」に関しては「新しい保育所保育指針などに対応するとともに、職業人としての意識を高めることができるよう、従前の『子どもの発達と保育』と『子ども文化』の内容を再構成し、保育を担う職業人として必要な子供の様々な表現活動を促す具体的な技術を身に付けることができるよう改善した。加えて、子供の保育のみならず、保護者支援の資質を養うことができるよう内容の充実を図った。さらに、具体的な保育の活動計画を作成し、より専門性の高い実習を行うことができるよう内容を改善した。」と解説されている。この科目は三つの指導項目で、2～8単位程度の履修を想定した構成となっている。

表1は、現行学習指導要領から「子どもの発達と保育」「子ども文化」の内容を抜粋して筆者が作成したものである。表2は、新学習指導要領から「保育基礎」「保育実践」の内容に示された指導項目を抜粋して筆者が作成したものである。この二つの表を概観すると、旧科目「子ども文化」は「保育基礎」の指導項目（大項目）として組み込まれており、従来の〈子ども文化の重要性〉は〈子供の文化と意義〉に、〈子どもと遊び〉と〈子どもの表現活動と児童文化財〉の一部が〈子供の遊びと表現活動〉として小項目に確認できる。〈子どもの文化を支える場〉に関しても小項目として確認できる。表2には児童文化財という表記は見当たらず、表現活動の内容は〈子供の表現活動と保育〉として「保育実践」の指導項目（大項目）に確認することができる。従来の〈子ども文化実習〉は、より専門性の高い実習を行うことができるよう〈保育の活動計画と実習〉が指導項目（大項目）として置かれたことに伴い、発展的に解消されたものと考えられる。また、旧科目「子どもの発達と保育」の内容の大項目〈子どもの福祉と子育て支援〉は、〈子供の福祉〉及び〈子育て支援〉に分割され、前者が「保育基礎」の指導項目（大項目）として、後者が「保育実践」の指導項目（大項目）として格上げされたことが確認できる。

子供の表現活動の内容の取り扱いは、これまでも実習を中心として扱うこととされていたが、新学習指導要領では「子供の表現活動を保育の場で展開するための基礎的な技術を身につけることができるよう実習を中心として扱うこと」と改めて明記された。また、〈保育の活動計画と実習〉が一つの指導項目（大項目）として位置付けられた。実習の改善に関する記述は上に示した通りであるが、この意味合いは非常に大きく、高校生の段階から保育現場に於いて保育者の視点に注目しながら、ある程度専門的な実習を経験することは、生徒の進路選択やキャリア支援に対して強い影響を与

えると思われる。全体として、従前の二つの科目は、関連を持ちながらもそれぞれが独自に指導される可能性を残した現行学習指導要領に対して、新学習指導要領では、「保育基礎」の体験的な基礎学習が「保育実践」へと繋がるように構造化された再編だと言えよう。科目名からも推察できるが、実際に新学習指導要領解説では「保育基礎」を履修させた後に「保育実践」を履修させることが望ましいことが謳われている。また、保護者支援（家庭支援）の資質の涵養や、活動計画に基づいた保育実習の実施などは、職業人としての意識を高めるという科目の到達目標の先に、保育士養成課程等への接続を見据えたものと捉えられる。

次に、想定された単位数を確認すると、「保育基礎」が2～6単位程度、「保育実践」が2～8単位程度であり、指導項目（大項目）数が少ない保育実践に対して、各校の実態に応じた配当時間の割り当てが可能のように設定されている。これは、「保育実践」の指導項目に子供の表現活動を支えるための技術を習得する内容や、保育現場での実習が置かれているため、科目の目標達成には相当の学習時間を要することが予測されることへの配慮だと考えられる。一方で、従前の科目は最低単位数の合計が6単位であるのに対して、新学習指導要領の科目の最低単位数の合計は4単位であり、より少ない単位数でも科目の開講が可能となった。これは、各高等学校の実態に応じた柔軟な運用を可能にする反面、指導項目を概観する限りでは、全ての指導項目を最低単位数で取り扱うのは非常に困難であることが推察される。

表1 現行学習指導要領の科目「子どもの発達と保育」「子ども文化」の内容

第5 子どもの発達と保育	
内 容	(1)子どもの発達の特性 ア 生涯発達における乳幼児期の意義 イ 発達と環境 ウ 発達観・児童観の変遷
	(2)子どもの発達過程 ア 身体発育と運動機能の発達 イ 認知機能の発達 ウ 情緒の発達 エ 人間関係の発達
	(3)子どもの生活 ア 乳幼児の生活の特徴と養護 イ 生活習慣の形成 ウ 乳幼児の健康管理と事故防止
	(4)子どもの保育 ア 保育の意義と目標 イ 保育の方法 ウ 保育の環境
	(5)子どもの福祉と子育て支援 ア 児童福祉の理念と関係法規・制度 イ 子育て支援
第6 子ども文化	
内 容	(1)子ども文化の重要性
	(2)子どもと遊び ア 遊びと発達 イ 遊びと遊具
	(3)子どもの表現活動と児童文化財 ア 造形表現活動 イ 言語表現活動
	ウ 音楽・身体表現活動 エ 情報手段などを活用した活動
	(4)子ども文化を支える場 ア 児童文化施設 イ 子どものための各種施設
	(5)子ども文化実習

表 2 新学習指導要領の科目「保育基礎」「保育実践」の内容

第 5 保育基礎	
内 容	(1)子供の保育 ア 保育の意義 イ 保育の方法 ウ 保育の環境
	(2)子供の発達 ア 子供の発達の特性 イ 乳児期の発達 ウ 幼児期の発達
	(3)子供の生活と養護 ア 乳幼児期の生活の特徴と養護 イ 生活習慣の形成 ウ 健康管理と事故防止
	(4)子供の福祉 ア 児童観の変遷 イ 児童福祉の理念と関係法規・制度 ウ 子供の福祉を支える場
	(5)子供の文化 ア 子供の文化の意義 イ 子供の遊びと表現活動 ウ 子供の文化を支える場
第 6 保育実践	
内 容	(1)子供の表現活動と保育 ア 造形表現活動 イ 言語表現活動 ウ 音楽・身体表現活動 エ 情報手段などを活用した活動
	(2)子育て支援と保育 ア 子供・子育ての問題 イ 子育て支援のための各種施設 ウ 子育て支援
	(3)保育の活動計画と実習 ア 保育の活動計画 イ 保育実習

2. 2 全国高等学校家庭科保育技術検定の概観

保育技術検定は、公益財団法人全国高等学校家庭科教育振興会（以下、高等学校家庭科教育振興会）が主催する民間の検定試験である。嘗て、保育コースの生徒は、暫定措置として 3 年時在学中に当時の保母試験（資格試験）の受験が可能であった。この措置は、昭和 63 年厚生省令第 36 号により廃止され²、これに代わるものとして、本検定は平成 5 年から主催者により実施されている。本検定は、高等学校において、家庭、保育、福祉関連の科目を履修している生徒に対して、音楽・リズム、造形（折り紙、描画、貼り絵、平面構成等）、言語（読みきかせ、紙芝居、素話等）を手段とする表現技術やレクリエーション技術及び家庭看護技術に関する各段階の検定を実施し、将来保育及び児童・高齢者の福祉関連の仕事に従事できる能力と実践的態度を育てることを目指すとされている。級の構成は 4 段階で、4 級及び 3 級では、全ての高

² 高等学校家庭科教育振興会のホームページには「昭和 62 年厚生省令改正により高等学校の保育科で学んだ生徒の保母試験受験資格が廃止」と紹介されているが、これは昭和 63 年の誤記と思われる。保育コース生が卒業時点で得られる保育に関する資格や免許は現在も無く、卒業生の多くは保育士養成課程等の高等教育機関に進学していると推察される。

校生に必要な親となるための基礎的な内容を取り扱い、2級及び1級では、将来の進路に役立つ高度な専門的な知識・技術の習得を目的としている³。平成29年度には756校（分校等を含む）で実施されている。この保育技術検定は、新学習指導要領解説の中で初めて活用が示された。これは、高大接続システム改革会議「最終報告」（平成28年3月）の中で、「多面的な評価の推進」に於いて、多様な学習成果を測定するツールを充実させる観点から、校長会等が実施する検定試験の活用促進や各種民間試験の普及促進が明示されたことへの対応であろう。具体的に確認すると、「保育基礎」の中では「乳幼児と触れ合う学習を行うに当たっては、具体的な技術を身に付けることができるよう、全国高等学校家庭科保育技術検定を活用するなど指導を工夫すること。また、観察、参加、実習などを多く取り入れるとともに、ICTを活用し指導内容の定着を図ることが大切である。」と解説されており、「保育実践」の中では「また、技術の習得に当たっては、実習を中心として行うとともに、全国高等学校家庭科保育技術検定を活用するなど指導を工夫することが大切である。」と解説されている。

表3は、保育技術検定の検定内容及び方法と時間を種目の級毎に示したものである。検定種目は4種で、全種目で合格点に達しなければ、その級の取得には至らない。この表に示された種目名と検定内容から、前述の通り4級から1級に向けて段階を踏んで検定内容の難度が上がるのが分かる。そして、2級及び1級では、各種目で筆記試験が実施される。一見して、保育の表現領域や養護に関する基礎的な知識や技術を測るための検定であることが分かる。また、「家庭看護技術」以外の3種目に関しては、「保育実践」の指導項目〈子供の表現活動と保育〉或いは「保育基礎」の指導項目〈子供の文化〉の一部に対する指導の工夫として取り扱われることが期待できる内容である。

一方で、現在の保育士養成等では余り使用されることの無い用語や、検定の内容に改善すべき点も見られる。まず、種目の名称に注目してみると、第一に、音楽表現に関する種目「音楽・リズム表現技術」に使われる音楽リズムという用語は、幼児教育の内容を「健康」、「社会」、「自然」、「言語」、「音楽リズム」、「絵画制作」の六領域としていた時代のものであり、現在では余り聞く機会が無い。種目名には「・（中黒）」が挿入されていることから、六領域の音楽リズムとは異なる意味合いでこの用語を用いているとも考えられるが、検定内容を見る限りでは幼児のリズム活動に特化した要素等は見当たらない。よって、敢えてリズムという言葉を添える必要は無いであろう。これは本検定の実施開始が、旧保母試験受験資格廃止に伴うものであった名残りの一つと思われる。当時の保母試験では、試験科目「保育実習」の中で、実地試験として「音楽リズム関係実技」という名称で器楽（ピアノ又はオルガン）と声楽の試験が実施されていた。保育技術検定の構想の段階で、主催者が当時の保母試験を手本として試験内容を作成したことは想像に難しくなく、旧保母試験の試験科目の名称が種目名として残ったものと推察する。

³ 保育技術検定の実施に関する詳細は、高等学校家庭科教育振興会ホームページを参照のこと。

また、種目「家庭看護技術」に関しては、嘗て専門教科「家庭」に置かれていた科目「家庭看護・福祉」と似通った名称である。本科目は、前回の学習指導要領改訂（平成 21 年 3 月）で「生活と福祉」と名称変更され、現在では、主に高齢者の介護と福祉に関する知識と技術を習得することを目標とした科目となっている。この種目は、内容の欄に「乳幼児の生活の世話」と示されていることから分かるように、高齢者の介護等は検定内容の範囲外である。よって、この種目に関しても現在の名称は不適切だと思われる。高大接続の観点からも、同一の分野でありながら校種によって異なる名称を使用し続けることは決して好ましい状態では無い。これら二つの種目の名称は、新学習指導要領の指導項目や、それぞれの検定内容に適合する現在の保育士養成課程或いは保育士試験等で使用される科目名に合致させ、「音楽表現技術」又は「音楽・身体表現技術」、「子どもの保健の技術」などに改めることが適当であろう。

次に、検定の内容に関して確認してみると、種目「造形表現技術」の内容が、折り紙、描画、貼り絵、平面構成と紙素材の取り扱いに偏重した内容となっていることが分かる。保育所保育指針では、予てより保育内容「表現」の項目の中で、水、砂、土、紙、粘土など様々な素材に触れて親しむことが示されており、新学習指導要領解説では「保育基礎」の中で、造形の基本となる粘土遊び、水、土や砂での遊びの大切さに気づかせることが明記されている。保育に関する造形表現技術の習得には、基本的な素材に親しむ経験が必要不可欠である。一つの素材に特化した技術の習得が否定されるものでは無いが、新学習指導要領の科目が目指す造形表現技術の習得の工夫として本検定を位置付けるのであれば、些か不十分な内容だと思われる。本検定に関して言及するならば、基礎的な内容としての位置付けにある 4 級及び 3 級の段階から基本的な素材を複数取り扱うことにより、より豊かな造形表現の技術習得に繋がるものと考えられる。

表 3 保育技術検定の種目及び検定内容・方法と時間

音楽・リズム表現技術			造形表現技術		言語表現技術		家庭看護技術		筆記試験	
級	内容	方法・時間	内容	方法・時間	内容	方法・時間	内容	方法・時間	内容	方法・時間
1 級	ピアノ演奏と童謡の弾きうたい	個別 5 分	壁面構成	一斉 50 分	素話の創作と実演	個別 3 分	乳幼児の生活の世話（けがの手当）	個別 5 分	各種目有	各 10 分
2 級	ピアノ演奏と童謡歌唱	個別 5 分	貼り絵（切り絵）	一斉 50 分	絵本の読みかせ	個別 3 分	乳幼児の生活の世話（清拭・おむつの交換）	個別 5 分	各種目有	各 10 分
3 級	ピアノ演奏と歌唱	個別 5 分	折り紙と描画	一斉 40 分	紙芝居の実演	個別 3 分	乳幼児の生活の世話（衣類の着脱）	個別 5 分	無	
4 級	歌 唱	個別 5 分	折り紙	一斉 30 分	童謡等短文の読みかせ	個別 2 分程度	乳幼児の世話（だっこ・授乳・検温など）	個別 2 分	無	

（高等学校家庭科教育振興会ホームページを基に筆者作成）

3. まとめ

ここまで、新学習指導要領に於ける保育に関する科目の整理統合の詳細と、高等学校家庭科教育振興会による保育技術検定の検定内容及び方法の現状に関して俯瞰してきた。新設科目「保育基礎」「保育実践」は、従前の二つの科目の内容を踏襲しながらも、子供の発達に留まらず保育に関わる内容の基礎を扱う「保育基礎」の学習を土台として、保育者の視点を踏まえた実習や表現技術の習得に重点を置いた「保育実践」の学習へと繋がるように構造化された再編だと言えよう。一方、単位数の設定幅が広がったことで、高校側はこれらの科目を導入し易くなった反面、今後は教育の質保証という新たな課題が考えられる。同一科目で指導のばらつきが無いよう、保育コースで指導に当たる教員らを対象とした全体研修等の実施を検討する必要があるだろう。保育技術検定に関しては、新学習指導要領解説の中で、技術の習得に対する工夫として活用が示されたところであり、今後全国各地の高等学校で導入されることが見込まれる。一方で、今後改善すべき幾つかの課題も確認された。保育技術検定は、その実施開始の経緯から旧保母試験を参考としたことが推察されるが、本検定自体も既に開始から25年の歴史を持つ。新学習指導要領解説の中で活用が示されたことを機会として、今後は保育士試験の出題内容に対応させるなど、生徒が将来保育の資格・免許を取得しようとする場合を想定し、保育に関する養成課程との構造的な繋がりを持つ検定になるよう改善されるべきと考える。

付記

本稿は、国際幼児教育学会第39回大会で口頭発表した内容に、新たな検討を加えて纏めたものである。

参考・引用文献

- 厚生労働省 (2017). 保育所保育指針 フレーベル館
- 厚生省児童家庭局長 (1989). 保母試験の実施について 国立社会保障・人口問題研究所 Retrieved from <http://www.ipss.go.jp/publication/j/shiryoku/no.13/data/shiryoku/syakaifukushi/375.pdf> (2018年11月1日)
- 久世妙子・大場光子・浅井恭子 (1987). 高校保育科の歩み ― その歴史と現状 愛知教育大学教科教育センター研究報告, 11, 173-182
- 三沢大樹・高橋セリカ・安川実穂 (2017). 保育の専門コースを擁する高等学校に於ける音楽表現の授業実践報告 常葉大学教育学部紀要, 38, 215-226
- 文部科学省 (2009). 高等学校学習指導要領 東山書房
- 文部科学省 (2010). 高等学校学習指導要領解説家庭編 開隆堂出版
- 文部科学省 (2016). 高大接続システム改革会議「最終報告」 文部科学省 Retrieved from http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2016/06/02/1369232_01_2.pdf (2018年8月31日)
- 文部科学省 (2018). 高等学校学習指導要領 文部科学省 Retrieved from <http://>

- www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2018/07/11/1384661_6_1_2.pdf (2018 年 10 月 1 日)
- 文部科学省 (2018). 高等学校学習指導要領解説家庭編 文部科学省 Retrieved from http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2018/07/13/1407073_17.pdf (2018 年 10 月 1 日)
- 文部科学省 (2018). 高等学校学習指導要領の改訂のポイント 文部科学省 Retrieved from http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/__icsFiles/afieldfile/2018/04/18/1384662_3.pdf (2018 年 8 月 31 日)
- 小田義隆 (2017). 高等学校保育科の制度的意義に関する一考察. 近畿大学生物理工学部紀要, 39, 1-10
- 全国高等学校家庭科教育振興会 (2018). 保育技術検定とは 全国高等学校家庭科教育振興会 Retrieved from <http://www.katei-ed.or.jp/shinko/hoiku.html> (2018 年 11 月 1 日)

